

「**クリスタルエッジ**」(JFカ) 風野 潮／著 講談社



冬の花形スポーツ、フィギアスケート。桜沢輪は、父親がコーチをしているスケートクラブで活躍する中学生だ。小さいころから当たり前のようにリンクに立っていたけれど、最近うまくいかない。リンクから足が遠のく輪に、幼なじみの葵が「やめたいんやったら、おれに勝ってみせろ。負けたら、戻ってもらう。」と勝負をいどんできた。この本を読むと、フィギアスケート観戦がもっとおもしろくなるよ。

続きの「クリスタルエッジ目指せ4回転!」(JFカ)と「クリスタルエッジ決戦・全日本へ!」(JFカ)もぜひ読んでみてね。

おはなしの庭 (冬のおはなし会)

日時：12月25日(水) 午前11時から30分くらい
 内容：東京子ども図書館の浅見和子さん(市内在住)によるすばなし
 場所：中央図書館 2階 おはなしのへや
 対象：小学生から 定員：なし
 費用：無料 申込み：不要



= 休館日のおしらせ =

【中央図書館】

☆12月☆2・3・9・16・23・28~31日
 ☆1月☆1~4・6・14・20・27・31日

【狭山台図書館】

☆12月☆2・9・23・28~31日
 ☆1月☆1~4・14・27・31日



さやまの100冊

「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、狭山市の教育委員会がおすすめしている本です。図書館ではこのマークが目印です。ぜひ読んでみてください。

狭山市立図書館

中央図書館
 TEL04-2954-4646
 狭山台図書館
 TEL04-2958-3801
 狭山市公式ホームページ
<http://www.city.sayama.saitama.jp/>

よむぞうタイムズ

76号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2019.12.1発行

飯能市にオープンした「ムーミンバレーパーク」行ってみた人もいるかな?ムーミンの物語がうまれた北欧フィンランドは、国の4分の1が北極圏。太陽が出ない日が続く、湖も川も海も凍ってしまう。今回はそんな寒い国々や地方から、冬にぴったりの本をみんなに紹介するね。



「**ムーミン童話全集**」5 ムーミン谷の冬(JSヤ5)

トーベ・ヤンソン／作・絵 山室 静／訳 講談社



ムーミン谷の長い冬。春が来るまで、ムーミンたちは暖かいベッドで冬眠する。ところが、どうしたわけかムーミンだけが目を覚ましてしまった。眠ろうとしても眠れない!!しかたなく家から外へ出てみると、そこは見たこともない一面の銀世界。この谷で、目を覚ましているのはムーミンひとりだけ?

「ムーミン童話全集」(JSヤ1~JSヤ9)は、全9巻。
 トーベ・ヤンソン／作・絵 講談社

- 1「ムーミン谷の彗星」 下村 隆一／訳
 - 2「たのしいムーミン一家」 山室 静／訳
 - 3「ムーミンパパの思い出」
小野寺 百合子／訳
 - 4「ムーミン谷の夏まつり」 下村 隆一／訳
 - 6「ムーミン谷の仲間たち」 山室 静／訳
 - 7「ムーミンパパ海へいく」
小野寺 百合子／訳
 - 8「ムーミン谷の十一月」 鈴木 徹郎／訳
- 別巻「小さなトロールと大きな洪水」
 富原 真弓／訳

講談社青い鳥文庫(JMヤ)もあります。



「太陽の東月の西」(JA々)

アスピヨルンセン／編 佐藤 俊彦／訳 岩波書店



家族のために白クマと暮らすことになったむすめは、夜中に白クマが人間の姿にもどるのを見てしまった。王子が、ままた母に魔法をかけられていたのだ。

正体を見られて姿を消した王子にもう一度会おうと、むすめはどこにあるのかさ

えわからない「太陽の東、月の西にある城」を探して旅に出た。

この本にはノルウェーに伝わる民話が18編収められています。みんなが知っているお話があるかもしれないよ。読んでみてね。

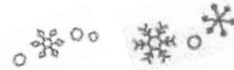


「雪原の勇者」(EEア)

スターラ・ソーズソン／再話
リーザ・ルンガ-ラーセン／文
メアリー・アゼアリアン／絵
千葉 茂樹／訳 BL出版



王が亡くなり王妃と幼い王子が城を追われた。彼らを助けたのは、ビルケバイネルとよばれる王に忠実な戦士たちだ。ふたりを安全な場所へ逃がすため、一年でいちばん暗くて寒さが厳しい冬のさなか、スキーで山越えをさせることにした。誇り高きビルケバイネルたちは、王妃たちを護れるのか？



「雪の女王」(JSア)

アンデルセン／作 木村 由利子／訳
朝比奈 かおる／絵 偕成社

カイとゲルダは、仲の良い友だち。いつも一緒に遊んでいたのに、とつぜんカイがいなくなってしまった。カイが雪の女王の住むラップランドに連れていかれたこと知り、ゲルダはあとを追う。「雪と氷。美しく、すばらしいところ」へと。でもそこは、雪の女王の氷の城。おそろしい雪たちがゲルダをおそう。

ディズニーとはひとあじ違うアンデルセンの名作。



「雪女」(EAイ)

小泉 八雲／作 平井 呈一／訳
伊勢 英子／絵 偕成社

ひどい吹雪ふぶきのなか、木こりの巳之吉みのきちと茂作は一晚粗末な小屋で過ごすことになった。寒さに巳之吉が目覚めると、閉めたはずの戸が開いていて、女が年老いた茂作の顔に白い息を吹きかけていた。声も出せない巳之吉に美しい女はささやいた。「今夜おまえが見たことは、だれにも言ってはいけないよ」



遠い昔から日本に伝わる身も心もこおりつくような雪女の物語。

「クリスマスの幽霊」(JBウ)

ロバート・ウェストール／作 ジョン・ロレンス／絵
坂崎 麻子／訳 光野 多恵子／訳 徳間書店



クリスマス・イヴ、ぼくは父さんが働く工場のエレベーターで、鏡の中に映ったおじいさんの幽霊を見た。「オットーじいさんだ。誰かが死ぬぞ」と、工場の人たちがおびえて言った。オットーじいさんが現れると、必ず事故が起きると言われている。

おじいさんの幽霊は何かを伝えようとしているのかもしれない。

「オーロラの向こうに」(J295マ)

松本 紀生／著 教育出版



北極に近いアラスカの冬、マイナス40度の氷河の上空でオーロラが舞い踊る。人間どころか動物さえ住めないような厳しい山々を「色鮮やかな光のカーテン」がおおいつくす。

でも、オーロラは、とっても気まぐれ。一か月もの間待っていても、現れないことだってあるんだ。大自然が織りなす雄大な情景を美しい写真で見よう。

